

タラロマイセス フラバス水和剤 タフブロック	取扱メーカー： 協友アグリ、ホクサン、出光アグリ 原体メーカー： 出光興産
成分： タラロマイセス フラバス SAY-Y-94-01 株孢子… 1×10^8 CFU/g	性状： 類白色水和性粉末 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】

- 微生物（いちごより分離した糸状菌）を有効成分とするイネ種子伝染性病害防除剤である。
- 水稲育苗期の主要病害であるばか苗病、いもち病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病に対し、従来の化学合成農薬と同等の防除効果を有する。
- 作用性としてもみ表面に付着、増殖することにより、病原菌の増殖・侵入を防ぐと考えられる。
- 作物及び周辺作物に対する薬害の心配がない。
- 鳥類、昆虫、水生生物、植物、土壌微生物などに対する影響がほとんどなく、土壌中では速やかに死滅し、環境に対しても極めて負荷が少ない。
- 廃液処理は従来の化学合成農薬に比較し、極めて簡便である。
- 微生物農薬なので「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」で農業使用回数にカウントされない。
- 微生物剤であるが常温保存で2年間有効である。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】

- 浸種前に粉衣あるいは高濃度浸漬、催芽前から催芽時に浸漬処理を行う。催芽～出芽時に適正な温度を与えることによりもみに付着したタフブロック菌を増殖させることが効果発現のポイントである。
- できるだけ健全な種もみを使用する。割れもみや傷ついたもみは使用しない。
- 温湯消毒済のもみにも使用可能である。

- 水換えは必要に応じ行うが、もみからの菌の脱落を少なくするため、静かに行う。
- 芽止めは菌が脱落しないよう注意する。もみの乾燥については直射日光をさけて行う。
- 市販水稲用培土などクリーンな培土を使用する。

【薬効・薬害等の注意】

- 本剤の有効成分は生菌であるので開封後は全て使いきる。
- ムレ苗には効果が低いので防除剤を併用するか、適正な育苗管理を行う。
- シンガレセンチュウ剤との併用は問題ないが、ベノミル剤、チオファネートメチル剤、TPN剤、及びEBI剤（ブロックラズを除く）を含む薬剤との混用又は、は種時処理との体系処理では効果を低下させるのでさける。
- 本剤を処理した場合、出芽後、種もみの表面に白色から黄色の菌叢が生じる。また、赤色の色素を産出する場合があるが苗の生育には影響がない。
- いもち病防除用の箱処理ではストロビリン系薬剤のは種時処理は効果を低下させるのでさける。
- 本剤は殺菌効果がないので病原菌の汚染度が高いもみでは効果の劣る場合があるので、塩水選などでもみを選抜し、適正な育苗管理を行う。

【安全対策上の注意】



【適用と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	タロマイセス フラパスを含む 農薬の総使用回数	
稲	褐条病 ばか苗病 いもち病 苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	200 倍	催芽時	—	24時間 種子浸漬	—	
	ばか苗病 いもち病 苗立枯細菌病 もみ枯細菌病		催芽前		24～48時間 種子浸漬		
			浸種前		湿粉衣		
	苗立枯病（フザリウム菌） 苗立枯病（リゾープス菌） 苗立枯病（トリコデルマ菌）	200 倍	催芽時		24時間 種子浸漬		
			催芽前		24～48時間 種子浸漬		
		種子重量 の2～4%	浸種前		湿粉衣		
	ばか苗病 いもち病 苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	20 倍	浸種前～ 催芽前		1時間 種子浸漬		
			苗立枯病（フザリウム菌） 苗立枯病（リゾープス菌） 苗立枯病（トリコデルマ菌）				浸種前
	稲 （箱育苗）	苗立枯病（リゾープス菌）	200 倍		は種時 覆土前		